

独立行政法人航空大学の令和元事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が達成され、国土交通大臣による令和元年度の総合評価が「B」評価であったこと等を踏まえ、役員解任等は行わなかった。
----------	---

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	令和元年度評価における主な指摘事項	令和2年度及び3年度の運営、予算への反映状況
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・追加教育の実績の検証などを行うに当たっては、各年度だけでなく、各回期でも整理・比較すると別の視点で傾向等が見えてくるのではないか。 ・ヒヤリハット報告については、航空大学校内部の報告にとどめず、一般の運航者にも役立つように、外部機関が運営する VOICES（航空安全情報自発報告制度）にも積極的に報告してほしい。 ・IC レコーダーを教官への指導に活用する場合には、録音情報だけでは把握できない部分があることも考慮しながら慎重に検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能取得の傾向を正確に把握し、より効果の高い追加教育を行うため、回期毎の分析にも積極的に取り組んで参ります。 ・VOICES については、令和2年度に23件の報告しております。積極的な報告を促すため、引き続き学内周知等の取組を進めて参ります。 ・IC レコーダーの録音情報だけでなく、教官及び学生へのヒアリングから得られる情報を活用することにより、教育の質の更なる向上・平準化に努めて参ります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・民間養成機関の要望に応じて技術支援を行っているとのことだが、航空大学校は、日本の操縦士養成のリーダー的な役割を果たすため、より積極的に情報発信をしていただきたい。 ・受験者数の増加に繋げる観点から、宮崎・帯広・仙台の学校所在地だけでなく、大きな供給源である首都圏での取り組みを検討してはどうか。 ・将来の進路を考えはじめる中学生・高校生をターゲットにした取り組みを検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度は東海大学からの計器課程訓練要請を受けて、訓練シラバスの作成等の受入準備を行っています。引き続き航空大学校の施設等の経営資源の活用について対応を進めて参ります。 ・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、大都市における取組は難しい状況にありますが、令和2年度より Twitter 及び Instagram による広報を開始しているところ、これらを活用した積極的な情報発信を行って参ります。
業務運営の効率化に関する事項	なし	—
財務内容の改善に関する事項	なし	—
その他の事項	なし	—